

第2回 北九州市文化財保存活用地域計画検討会 会議録

開催日時:令和 8 年 7 月 30 日(木) 13 時 30 分～14 時 45 分

開催場所:市役所本庁舎3階 特別会議室A

出席者

【委員】

荒木和憲・内田晃・小石富美恵・柴田加奈子・前菌廣幸・南博
岩崎ひより(オンライン参加)

【オブザーバー】

杉原敏之(福岡県教育庁文化財保護課参事兼課長技術補佐)

【事務局】

都市ブランド創造局総務文化部長、文化企画課長、埋蔵文化財担当課長、文化財係長
文化財係員 2 名

【コンサルタント業者】

株式会社フジヤマ 社員3名

【会議の公開・非公開について】

公開

議事概要

1.令和8年度の業務計画について

内容:令和 8 年度の文化財保存活用地域計画作成業務について、作業工程等について、事務局より説明を行い、委員からの質問や意見を伺った。

前菌委員:文化財リストの作成にあたり、戦争遺跡の取り扱いをどうするのか。また近年、さらに戦争遺跡が発見されているが、そうしたものも新たにリストに加えるのか。

事務局:文化財リストには戦争遺跡も掲載予定であり、これは福岡県が実施した悉皆調査のデータをもとに作成を進めている。また、前菌委員が新たに調査した成果なども追加で掲載できればと考えている。

2.協 議

議事(1):北九州市の歴史文化の特性について

内容:北九州市の歴史文化の特性および、本計画が対象とする範囲について、事務局案を提示し、各委員からご意見を伺った。

① 歴史文化の特性について

前園委員：「文化の発着点」という表現が具体的に何を指すのか、また、東西の「交流」なのか「交易」なのかといった細かい表現の部分。また山城に関する文言は、所在数の多さなどからもう少し踏み込んだ記述が必要と思う。また小倉城と都市の発展を挙げているが、同じ海城として築城された黒崎城とその周辺についてはどう扱うのかという点も指摘したい。さらに豊前・筑前の文化圏や5市合併により多様な文化をもつ地域が1つになり、北九州市が誕生しているので、その部分を7項目目として加えたら良いのではないかなと思う。日本の成長をささえた産業都市とあるが、産業都市は過去形ではないのでは。

小石委員：歴史文化の特性の副題にある「新たな文化を生み発信してきた地域」という言葉が具体的に何を指すのかが分かりにくいと思う。また日本の近代化を支えた産業都市という表現だが、環境産業をはじめとする新たな産業を牽引しているので、過去形の「支えた」ではなく現在進行形の「支える」ほうがよいと思う。

南委員：交通の要衝であることを記述する際、響灘と周防灘の2つの海域を挙げているが、関門海峡を含めた三つの海域で表現されることが多いので、そこは整理してほしい。次に小倉城とその城下町だけを都市の骨格として扱うのは、黒崎や若松などの歴史を踏まえると難しいと思う。また、わっしょい百万夏まつりは非常に文化的な意味あいの強いものだが、文化財の類型である「祭礼」の中には含まれないと思うので「人々の絆を結ぶ祭礼文化・地域行事」などのタイトルにしたほうが良いと思う。

荒木委員：城郭と城下町は分けて考えたほうが良いと思う。「祭礼文化」については新しい地域行事を含むのであれば「まつり」など幅のある表現も考えられるのではないかな。また、6つの項目を並列させるのか、強弱をつけていくのかについても検討が必要ではないかなと思う。

岩崎委員：歴史文化の特性については、興味深く聞かせて頂いた。現時点で付け加えることはない。

柴田委員：「路」のタイトルだけ一語で、他のタイトルと比べ違和感がある。産業都市の中に労働者文化や文学などを含めるのが良いと思う。

杉原オブザーバー：各項目をキャッチフレーズで示すのか、説明的な見出しにするのか整理が必要だと思う。また「多様な文化が行き交い、新たな文化を生み発信してきた地域」という全体の説明が、6項目とどう繋がっていくのか丁寧に組み立ててほしい。

事務局：細かい文言の修正については、頂いたご意見を基に検討していきたい。また、③の項目は現状で小倉城と城下町についてのみ記述しているが、黒崎を含めた内容を検討したい。豊前・筑前の両国にまたがるといった点や五市合併を踏まえた内容を7項目として設定するのかについても検討したい。

② 計画の対象範囲について

南委員：文化財を取り巻く要素の中の「人々の気質」については、捉え方や表現によって、意図とは違う受け取られる可能性もあるので、扱いには慎重さが必要と思う。

内田座長：「人々の気質」を計画に書き込む場合は、慎重に検討する必要があると思う。

柴田委員：「人々の気質」を独立した項目にせず、労働者文化や文学作品を通じて表現する方法もあるかと思う。

小石委員：歴史文化資源を身近に感じてもらうためにも、文化財を取り巻く要素を含め、総合的に捉えることが大切だと思う。また「食」も歴史文化資源の要素として加えられないか。

内田座長：「食」を「特産品」に含めるのか、独立した項目にするのかを含め、検討をお願いしたい。

前園委員：「文化財の保存技術」について、現時点で北九州市に該当するものがあるのか。もしなければ項目を設けることが必要なのかとも思う。いっぽうで、将来該当するものが出てくる可能性もあるので、残しておく考え方もある。

柴田委員：産業遺産の保存や修復に必要な技術という視点で考えてよいかもしれない。

事務局：「人々の気質」については、ここで表記するかどうか含め、検討する。また、「文化財の保存技術」については現時点で市内に該当するものはないが、文化庁が規定する文化財の類型に含まれているので、記述しておく必要がある。

議事(2)：文化財の保存・活用に関する将来像について

内容：文化財の保存・活用に関する将来像のたたき台について、事務局案を提示し、各委員からご意見を頂いた。

柴田委員：「7区」や「旧5市」という文言が全面に出てくることには違和感がある。また将来像を実現するための4つの骨格については、他都市にも当てはまる内容で、北九州市らしさがあまり現れていないと思う。

内田座長：「7区」という表現は、5市合併時の考え方を今も引きずっているように受け取られる可能性がある。北九州市らしさをもう少し明確にする必要がある。

小石委員：歴史文化の特性はストーリーでまとめられていたが、将来像で「7区」に分かれてしまい、つながりが感じられない。市全体の特性が伝わる表現にして頂きたい。

前園委員：「7区」という表現は使わず、歴史文化の特性として整理する6項目、または追加を検討する7項目を基に組み立てたらどうだろうか。また、関門地域をはじめとする周辺地域との関係も大切なので「連携」という言葉を入れたほうが良いと思う。

杉原オブザーバー：歴史文化の特性に挙げた言葉や「新たな文化を発信し続ける」といったキーワードを将来像にも入れるなど、構造的にも繋がるようにして北九州市独自の表現にしたらどうか。「九州の北の要」という北九州市の特性を前面に出して良いようにも思う。

南委員：他の委員の方と同じ意見。現状の案では厳しいように思う。

荒木委員：「旧市域を超えた交流を育む」と書くとは今は交流がないようにも読める。古代から交通の要衝であるので、過去・現在・未来へとつながる一貫した表現が必要。また、「文化財を磨き上げる」「守る・育む」という表現についても、分かりやすく示してほしい。

内田座長：文化財そのものを磨き上げるというよりも、その価値や存在を改めて認識し、広く周知していくという趣旨だと思う。全ての歴史文化資源を一律に扱うように見えない表現が必要ではないか。

事務局：今回の案では文化財を守り・磨いてシビックプライドの醸成に生かす、そして活用するという考え方で、将来像と4つの方針をお示しした。ただ、ご指摘を踏まえて、歴史文化の特性と将来像とのつながりについて、もう少し丁寧に整理する。

前園委員：シビックプライドの点については、例えば学校の先生や生徒が校歌にうたわれている校区の山や川を知らないといった問題もある。また、少子高齢化によって寺社や祭りの担い手が不足している問題があるので、この点も方向性を示してほしい。

内田座長：今回はいろいろな意見が出た。将来像については、今回の意見を踏まえ、事務局で検討して頂き、次回の検討会議でさらにブラッシュアップしていきたい。市の上位計画である新ビジョンの「稼ぐ」「安らぐ」「彩る」といった考え方と本計画の関係についても整理をお願いしたい。